

町内観光施設を清掃していただきました JA秋田おばこ職員ボランティア清掃活動

7月27日にJA秋田おばこ（藤村正喜組合長）による清掃活動が行われ、同JAの職員約580人が参加しました。この活動は、JA秋田おばこ誕生10周年を機に「自分のふるさとを大事にしていく運動に役立とう」という目的で始められたもので、今回で6回目の開催です。町内3温泉施設と大台野広場の4カ所に分かれた職員は、暑い中を1時間余りにわたって活動しました。このうち六郷温泉あったか山では、周辺道路の清掃のほかコテージの掃除が行われ、網戸や窓に張り付いたクモの巣などを丁寧に落としていました。



世界にひとつだけの絵本をつくりました 手づくり「しかけ絵本」教室

7月27日に美郷町中央ふれあい館で手づくり「しかけ絵本」教室が開催され、親子連れなど12組が、自分だけのオリジナル絵本づくりに挑戦しました。用意された見本用の作品を手にとって構造を確認したりお互いに“しかけ”を教えあったりしながら、思い思いに工夫を凝らした作品を仕上げていました。完成後の作品をお互いに鑑賞しあうとさらにアイデアが膨らんだようで、参加者からは「とても面白い」「家に帰ってからもまた作ってみたい」という声が聞かれました。



採れたてのブルーベリーを堪能 町内3幼稚園・保育園が収穫体験

7月29日と8月1日に分けて、町内3幼稚園・保育園の4歳児がブルーベリーの収穫体験を行いました。この収穫体験は、子育て支援などを行う町更生保護女性の会（藤谷純子会長）が主催し、町内の幼稚園・保育園の給食にブルーベリーを出荷している黒川農園が会場を提供して、収穫の機会を与えてくれたものです。

食べ頃の実の見分け方を教わった園児たちは、早速、農園の中を駆け回って収穫を開始。摘み取ったばかりの甘酸っぱいブルーベリーを頬張ると、思わず笑みがこぼれていました。黒川農園の黒川正之さんは「自分たちで収穫して食べる楽しみを知ってほしいと思い、企画に参加した。将来、子どもたちが大きくなって地元を離れることになったとき、ふるさとの味の一つとして思い出してもらえればありがたい」と話してくれました。



お互いの地域の文化に触れ合って 千畑小学校・御田小学校交流事業

7月26日から7月28日にかけて東京都港区御田小学校の児童34名とその保護者らが美郷町を訪れ、千畑小学校の児童とその家族との交流を深めました。交流初日に千畑小学校で行われた対面式では、小原靖校長が「秋田が御田小の子どもたちにとって、第2のふるさとであってほしいとの思いで交流を続けてきた。秋田の家族と思いっきり楽しんでください」と歓迎しました。その後、御田小学校の児童はホームステイ先の家族と対面し、町内観光や花火、バーベキューなどをして美郷の夏を楽しみました。最終日には再び千畑小学校に集まり「野菜パーティー」を開催。トマトやスイカなどの新鮮な美郷町産の野菜や特産品に舌鼓を打ちながら、両校の児童は3日間の思い出を語り合っていました。

8月9日から8月11日には、千畑小学校の児童23名が東京都港区を訪問し、東京都内の散策やホームステイ先の家族との交流を通じて、都市体験を行いました。

旧千屋小学校から継続し、今年で37回目となる交流事業。両校の保護者の中には自分が子どものころに交流を経験した方もおり、親子2代にわたって交流の絆を深めています。



■御田小学校の校庭での水遊び



■千畑小学校で行われた野菜パーティー

創造～一人ひとりの可能性～ 平成25年度美郷町成人式

8月15日に美郷町公民館で平成25年度美郷町成人式が行われ、平成4年4月2日から平成5年4月1日生まれの新成人244名の門出を祝いました。

式典では、3地区を代表して高橋克弥さん、鈴木滉司さん、長岐政伸さんに松田町長から成人証書が授与され、成人を代表して岡本和磨さんが「これまで支えてくれた多くの方々への感謝を忘れず、未来に向かって力強く、やさしく、たくましく、生きていくことを誓います」と謝辞を述べました。

式典後には、アクア美郷ジャズセッションとして、美郷ジャズオーケストラのメンバー4名が駆け付け、音楽を通じて新成人の門出を祝いました。その後は、成人式実行委員会が制作した「創造～一人ひとりの可能性～」と題した記念映像を上映。中学校時代の恩師からのお祝いの言葉や、新成人たちの職場や学校での様子などが紹介されると、会場内は大いに盛り上がっていました。



■謝辞を述べる岡本和磨さん

確認の意義

美郷町長 松田知己

風



美郷町自主防災組織
防災講演会であいさつを
述べる松田町長

9月1日が誕生日の私は、生まれながらにして「防災」を考えねばならない宿命です。なぜかと言いますと、その日が関東大震災の日だからです。そのため、9月1日は全国の「防災の日」になっており、夕方には必ず防災関連のニュースが流れます。いきおい私は、誕生日のウキウキ気分とともに、否応なく防災意識や体制について確認せざるを得ないわけです。ちなみに9月1日は地元二ツ柳集落の

お地藏さんのお祭りの日。地域的には本当におめでたい日に生んでもらっているわけですが…。そして今年。やはり防災をさらに意識しなければならぬ誕生日を迎えました。つい先日、豪雨に伴う大きな災害があったからです。既にご承知のとおり、県内では浸水被害や土砂崩れが多数発生し、そして仙北市においては土石流も発生。甚大な被害を蒙りました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。一方で、美郷町は被災という観点では本当に恵まれています。最近の自然災害、まるで美郷町を避けてくれているようにも見えます。本当にありがたいことです。しかし、私たちはそんな

根拠のない幸運に甘えている訳にはいきません。災害への備えの意識は「常在」が基本。そのため、先般もヤマト運輸株式会社と協定を締結しましたが、今後も充実を期したいと思います。そしてこの度、備えの意識についてみなさんに今一度のお願いがあります。

町では平成21年3月に「災害ハザードマップ」、24年5月に「防災お役立ちガイド」を作成し、全戸配布しました。その中には、浸水想定区域や浸水の深さ想定、土砂災害危険区域や地すべり危険箇所などを記載しています。みなさん、自分が住んでいる地域の危険性、改めて確認してください。また、危険性の有無に関わらず、自分の命は自ら守る観点で、不測の事態にどこにどうやって動くのかも、改めて確認をお願いしたいと思います。

こうした実践の積み重ねが、もし、災害時に明暗を分けるようなことがあるならば、確認という簡単な行為は大きな意味を持つ机上訓練になります。